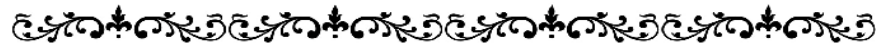




ロシアから日本へ  
 正教が伝わって150年…  
 その最初の伝播の地・函館で  
 今も歌い継がれる正教会聖歌の響き



[プログラム]

- 第103聖詠(教会スラブ語)  
 作曲:アレマノフ
- 第103聖詠「我が霊や主を讃めあげよ」  
 大連祷 作曲:アルハンゲリスキー  
 悪人の謀にゆかざる人は福なり(二番)  
 抱神者聖シメオンの祝文(四番)  
 作曲:ヤコフ・チハイ
- 天主経(二番) 作曲:ヤコフ・チハイ  
 天主経 作曲:ケドロフ
- 主の名を讃め揚げよ(番外)  
 作曲:オルロフ
- 主の名を讃め揚げよ  
 作曲:アルハンゲリスキー
- ロシア民謡 大村義美氏ソロ  
 我が祖国  
 モスクワ郊外の夕べ  
 バイカル湖のほとり  
 ステンカ・ラージン
- 神の独生の子 作曲:トウルチャニノフ
- Тебе Бога хвалим  
 作曲:ボルトニャンスキー
- ムノガヤレータ三曲(教会スラブ語)  
 家路 (作詞、作曲:長井則文)



日本に正教を伝えた  
 聖ニコライ (カサツキン)

聖歌を日本語に訳詞・編曲した  
 ヤコフ・チハイ

# 正教会聖歌コンサート



日時:2010年8月20日(金)  
 会場:函館ハリストス正教会 信徒会館  
 開場:午後6時  
 開演:午後6時30分

- 主催 -  
 函館ハリストス正教会

お問い合わせ  
 〒040-0054 函館市元町3-13  
 TEL 0138-23-7387

# 曲目解説

だい せいえい わ たまい しゅ ほ あ  
1. 第103聖詠「我が 霊 や主を讃め揚げよ」／(曲:アレマノフ)

正教会聖歌の中には、聖詠(=旧約聖書の詩篇)からとった祈祷文がたくさんあります。150からなる聖詠のうちの第103聖詠は、天地創造のダイナミズムと人間の知恵では計り難い主・神の睿智を讚美しています。天地創造を歌うこの聖歌によって、一日の奉神礼のサイクルが始まることから「首誦聖詠」とも呼ばれています。

曲は、ロシアの聖歌作曲家アレマノフの作品です。ロシア正教会で歌い継がれ、今日も歌われている教会スラブ語で歌います。

だい せいえい わ たまい しゅ ほ あ  
2. 第103聖詠「我が 霊 や主を讃め揚げよ」

1. と同じ第103聖詠を、日本正教会で歌われている日本語聖歌をご紹介します。日本正教会の祈祷文の日本語訳の殆どは、1861年に函館に来航し、後に日本全国に正教を伝道した聖ニコライと漢学者中井つぐまるの共同訳です。正教会の教えを正確に伝えることにおいて卓越した訳語です。

だいにんとう  
3. 大連禱／(曲:アルハンゲリスキー)

正教会には、短い祈祷文を幾つも連ねて一つの祈祷文を構成するものがあり、これを「連禱」と言います。その中で代表的なものが「大連禱」です。輔祭によって次々と読みあげられていく祈祷文に対して、聖歌隊は『主、憐れめよ』と応答します。

ロシアで最も敬愛されている聖歌作曲家の一人、アルハンゲリスキーの曲で歌います。

あくにん はかりごと ゆ ひと さいわい  
4. 「悪人の 謀 に行かざる人は 福 なり」

正教会奉神礼の中の「晩課」と呼ばれる祈祷の中で歌われる聖歌です。

ほうしんしゃせい しゅくぶん  
5. 抱神者聖シメオンの祝文／(曲:ヤコフ・チハイ)

主が遣わす救世主に会うまでは死ぬことがないと、聖神<sup>せいしん</sup>の啓示を受けていた聖シメオンが、エルサレムの神殿で降誕後八日目のハリストスに会い、腕に抱いて神を崇めた時の言葉が聖歌になったものです。聖シメオンは「神を抱いた者」という意味で「抱神者」と呼ばれます。『主よ、今、爾の言葉に従って、爾の僕を赦し安然として去らしむべし。蓋し我が目既に爾の救いを見る』という聖シメオンの言葉に、旧約の預言者の時代が終わり、新約の時代が始まる重みを感じられます。

曲は、19世紀の終わりにロシアから函館に詠隊指導者として赴任し、日本正教会聖歌のために尽力したヤコフ・チハイのものでした。

てんしゅきょう

## 6. 天主経／(曲:ヤコフ・チハイ)

『天にいます我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ』という正教会信徒にとって日常的に最も親しみのある祈祷文です。天主経に曲を施した聖歌作曲家は大変多いのですが、今は、先ほどの5.と同じくヤコフ・チハイの曲でご紹介します。日本正教会では、婚配式などで好んで歌われる華やかなイメージの曲となっています。

てんしゅきょう

## 7. 天主経／(曲:ケドロフ)

6.と同じ天主経を、ロシアの聖歌作曲家ケドロフの曲でご紹介します。前曲とは対照的に、静かで内省的なイメージの曲となっています。

しゅ な ほ あ

## 8. 「主の名を讃め揚げよ」／(曲:オルロフ)

この聖歌は、正教会奉神礼の中の「<sup>そうか</sup>早課」と呼ばれる祈祷において、最も華やかな場面(ポリエレイ)で歌われる聖歌です。「ポリエレイ」とは、「油が多い」または「光が多い」という意味です。この場面で、聖堂内の全ての明かりが灯されるからです。各節の間に「ア ril イヤ」という言葉が挿入されています。「ア ril イヤ」とは「主を讃め揚げよ」という意味です。

しゅ な ほ あ

## 9. 「主の名を讃め揚げよ」／(曲:アルハンゲリスキー)

8.と同じ聖歌をアルハンゲリスキーの曲でご紹介します。

### ロシア民謡

「我が祖国」は、広々としたロシアの大地を「我が祖国」として歌い上げる愛国的な歌です。

「モスクワ郊外の夕べ」は、ソビエト時代にモスクワ郊外で開催された青少年国際交流のイベントを記念して作曲された比較的新しい歌。

「バイカル湖のほとり」は帝政ロシア時代の脱獄囚の悲哀を歌ったもの。

「ステンカ・ラージン」はコサックのドラマティックな人生を叙事詩のように綴ったものです。

かみ どくせい こ

## 10. 「神の独生の子」／(曲:トウルチャニノフ)

この聖歌は、正教会奉神礼の中で一番重要な「<sup>せいたいれいぎ</sup>聖体礼儀」という祈祷の中で歌れます。三位一体の神の中の「神・子」である主ハリストスについて歌っています。

『神の独生の子ならびに言葉や、死せざるものにして我等を救わんがために甘んじて聖なる  
しょうしんじょえいていどうじょ  
生神女永貞童女マリヤより身をと、神の性を変えずして人となり十字架に釘打たれ、死をもって死を踏み破

りしハリストス神や、<sup>せいさんしや</sup>聖三者の一として、父と<sup>せいしん</sup>聖神<sup>せいしん</sup>と共に讃栄せらるるの主や、我等を救い給え』。

教会スラヴ語で歌います。

われらなんじかみ さんよう  
11. 「我等爾神を讃揚す」／(曲:ボルトニャンスキー)

ロシア正教会聖歌の中でイタリア音楽の影響が最も強い聖歌作曲家としてボルトニャンスキーの名前を挙げるすることができます。コンチェルト形式の聖歌を多く作曲した人です。今回はその中から「感謝祈祷」とい<sup>かんしゃきとう</sup>う祈祷で歌われる「我等爾神を讃揚す」(メディオランの主教聖アンヴロシイの祝文)の第一楽章をご紹介します。

教会スラヴ語で歌います。

12. 「ムノーガヤ・レータ」 三曲

「主よ、<sup>いくとせ</sup>幾年にも護り給え」という祈祷文から「<sup>いくとせ</sup>幾年も」という言葉を独立させたのが「ムノーガヤ・レータ」(教会スラヴ語)または「幾年も」(日本語)と呼ばれる聖歌です。三曲続けてお聞き下さい。

いえじ  
「家路」

最後までご清聴下さり、誠にありがとうございました。

日本の合唱曲「家路」を歌います。

函館ハリストス正教会聖歌隊

ソプラノ	アルト	テノール	バス
タイシャ高井醇子	ユリヤ松井真佐子	アキラ大村義美	イシドル中居真行
アンナ森もと子	ルキヤ西橋曜子	パルメン伝法 肇	イオアン盛田 誠
オリガ盛田明子	マリヤ大谷孝子	伊藤喜久雄	石崎福邦
ナデジダ高島昭子	リュボフ下田節子		木村映之
マルファ佐藤直美	エリザヴェタ加藤きくえ		

福田尚代

西田恵子

連祷: 輔祭 アキラ吉川 昭

聖歌指導: スヴェトラナ山崎 瞳